奈良のルーツを知る施設

奈良県には過去の奈良を知ることができる県立の文化施設がある。奈良の過去を知ることは、日本の歴史を知り、現在の奈良を知ることにもつながる。今回の特集では、考古学の研究から先人たちの歴史・文化を解明する橿原考古学研究所とその附属博物館、奈良の先人たちの知恵と工夫を凝らした生活を知ることができる民俗博物館、奈良県に関係する図書や古文書・公文書等を収集・保存する図書情報館、三つの県立施設について紹介する。

写真：橿原考古学研究所附属博物館

附属博物館

奈良県立橿原考古学研究所と奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

橿原考古学研究所は、奈良県立の考古学研究施設。考古学は遺跡から発掘した出土遺物や建物の跡などの「モノ」を手掛かりとし、地域や先人の生活・環境を解き明かすための学問だ。橿原神宮外苑整備事業として橿原遺跡の調査が行われた1938年に設立され、戦後の1951年に県立の施設となった。公的な考古学の研究機関としては最も古い歴史を持ち、奈良県から出土した、日本の歴史上重要な文化財を多数収蔵している。

研究所は遺物の保存管理や調査研究を主に行う。附属博物館では旧石器時代から近世に至るまでの出土品を収蔵・保管し、展示・公開している。

附属博物館

奈良県立橿原考古学研究所
奈良県橿原市畝傍町1 8：30～17：15 休 土曜日・日曜日・祝日・年末年始（12月28日～1月4日）

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
奈良県橿原市畝傍町50-2 9：00～17：00（入館は16：30まで） 休 月曜日（祝日の場合は翌平日）・年末年始（12月28日～1月4日）

発掘した出土品の調査研究施設

研究所では、調査や研究、出土遺物の保存処理などを行っている。研究所内の作業エリアは非公開だが、所内には一般利用できる設備もある。

一階のアトリウムでは、同研究所の中でも、発掘調査と報告書の作成が終わって間もない速報性の高い展示などが行われている。また、300人収容の講堂では年に数回の講演会や動画上映を開催。二階にある書庫では、全国の発掘調査報告書・学会誌・論文集などの蔵書が約22万冊もあり、所定の手続きをすれば閲覧利用も可能だ。

アトリウムでの展示の様子。

遺物洗浄作業など、遺物の調査や整理が行われている。（非公開エリア）

調査後の遺物がぎっしり。（非公開エリア）

書庫の資料は、申請することで、閲覧室で閲覧できる。

日本一の考古学博物館

附属博物館では、橿原考古学研究所の発掘調査による出土資料を展示している。

発掘の際に年代などを特定する基準となる考古資料を「基準資料」という。常設展では、奈良県出土の基準資料を通じ、日本史の中で重要な位置を占める奈良県の歴史について理解を深められる。

県内出土の出土品だけでも国宝1件、重要文化財12件を含む約1万3000点の資料が展示されている。質、量、内容全てが充実した、日本一の博物館だ。春秋に特別展、夏には発掘調査成果の速報展「大和を掘る」を開催している。

藤ノ木古墳出土金銅製鞍金具。藤ノ木古墳出土品はすべて国宝。

ミュージアムショップはグッズ・書籍ともに充実している。

ユーモラスな表情をした観音寺本馬遺跡（橿原市・御所市）の土偶。

古事記編纂者、太安萬侶の墓は現地で剝ぎ取りをした本物を展示。

奈良県立民俗博物館・奈良県立大和民俗公園

民俗文化財とは、衣食住、生業、信仰、年中行事などの、人々の生活の推移を示すもののこと。用具類や施設などの有形民俗文化財と、年中行事や芸能などの無形民俗文化財の二種類がある。民俗文化財には、地域独自の生業や生活様式、風土に合わせることで生じた「地域の個性」がたっぷり詰まっている。歴史はもちろん、地域の特色を知るためにもぜひ訪れておきたい。

奈良県立民俗博物館は大和民俗公園内にある施設で、奈良県の有形・無形の民俗文化財を収集している。館外には県内各地から江戸時代の民家9軒15棟が移築・復原されている。週末には、地域や外部団体とも協力し、カフェやコンサートなどのイベントを開催。現在の文化も民俗文化の一部であると考え、コスプレ撮影イベントなども行われている。

奈良県大和郡山市矢田町545 9：00〜17：00（入館は16：30、古民家は16：00まで） 休 月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）・年末年始（12月28日〜1月4日）

昔のくらしを知る常設展示

館内の常設展示は4つのテーマで分かれている。「農村の四季」では、水が貴重な奈良ならではの踏車（田に水をくみ上げるための揚水水車）をはじめとする稲作を支える道具や、行事の祭祀道具、写真などを地域色豊かに展示。「地域とものづくり」では、そうめんや金魚などの地場産業の歴史と道具を紹介する。「川と人とのかかわり」では、水運や水害対策などを紹介している。「昔のくらし」では、大正末期から昭和初め頃の家の中をイメージし、当時の道具を展示するとともに、その道具がどのように洗練されていったか、時代ごとの比較もできる。

「昔のくらし」では、大正末期から昭和初め頃の家の中をイメージして展示されている。

「吉野林業用具と林産加工用具」は国指定の重要有形民俗文化財。民俗文化財の国宝といえる。

常設展の他に企画展もある。地域や外部団体と共催し、様々なジャンルの展示が企画されている。

体験コーナーでは黒電話や和傘など、古道具に実際に触れることができる。

館外（大和民俗公園内）に県内各地から移築復原されている古民家9軒15棟のうち、3棟は国指定重要文化財、10棟が県指定有形文化財。写真の旧岩本家住宅（旧室生村・現在の宇陀市にあったもの）は、2023年に公開された映画『唄う六人の女』の撮影場所にもなった。土間まで入ることができる。

奈良県立図書情報館

奈良県立図書情報館は単なる図書館ではなく、多くの情報を集積し、利用・発信する奈良県の情報拠点としての機能をもたせようと意図され、２００５年11月に開館した。県の中核的な図書館であるとともに、奈良県の歴史・文化に関する専門図書館、さらに情報センター機能のひとつとして公文書館機能をあわせもっている。

公文書館としては、奈良県に関わる歴史的行政文書をはじめ、近世以来の古文書や絵図など、後世に伝えるべき資料の保存・利用拠点としての役割を担っている。独立した公文書館ではなく、図書館併設のため縦横に情報へアクセスができるのも特徴である。また、収集・保存だけでなく、館自らが所蔵資料を活用したテーマ展示を積極的に行うほか、資料のデジタル化やネット環境でのヴァーチャル展示など、リアルとネットを両輪とした重層的な情報発信に務めている。

奈良県奈良市大安寺西1丁目1000番地 9：00 ～ 20：00 休 月曜日（祝日、振替休日の場合は翌平日）・毎月末（土、日、月曜日の場合は翌平日）・年末年始（12月28日～1月4日）

書物から奈良の奥深さ

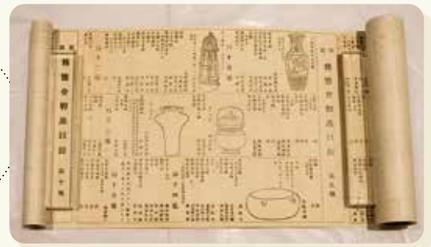
国家の成り立ちや文化の形成の舞台となった奈良。そんな「はじまりの奈良」に相応しく、古代から現代まであらゆる分野に関する奈良関係の図書は、3階のふるさとコーナーや閉架書庫に5万冊あまりある。また、近世以来の貴重な古文書や絵図、和漢籍、明治以来の新聞や歴史的な公文書（行政文書）なども貴重書庫や閉架書庫で保存されている。

明治から大正時代の奈良県行政文書 6,695 冊が県指定文化財である。

恒温恒湿を保つ設備を備えた貴重書庫は、原資料の宝庫である。

江戸時代の和書の一例「春日大宮若宮御祭礼図」

貴重な史料は、博物館の特別展に貸し出されたり、テレビ・出版物で紹介されることも。



正倉院宝物が初めて一般公開された明治 8 年の目録「奈良博覧会物品目録」

デジタルスタジオ・オーサリングルーム

写真撮影や音声収録・編集ができるデジタルスタジオや画像・動画の編集や大判プリンターでポスター印刷もできるオーサリングルームなど、自ら情報発信するツールも備えている。（要予約・有料）

Webページの「まほろばデジタルライブラリー」では、高精度のデジタル画像で古文書や絵図を公開している。